

# 吉見町の概要

吉見町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、都心から 50 km 圏内に位置している。昭和 29 年 7 月 1 日に 4 か村が合併し吉見村が誕生、昭和 47 年 11 月 3 日に町制を施行し、現在の吉見町となった。東は鴻巣市と北本市、南を川島町、西を東松山市、そして北は吹上町と大里町に接している。町域は東西に約 7 km、南北に約 8 km で、総面積は 38.63 k m<sup>2</sup>。西部の丘陵部を除いては広く開けた平野部で、かつては、荒川、市野川などの氾濫による水害に悩まされたが、昭和 13 年に全ての堤防が完成した後は、肥沃な穀倉地帯となっている。また西部の丘陵地一体が県立比企丘陵自然公園に指定されており、国指定史跡の「吉見百穴」や国指定天然記念物「ヒカリゴケ」が文化財として有名である。

吉見町は昭和 45 年に市街化区域の設定など都市化の一步を踏み出し、都市基盤施設の整備強化、荒川右岸流域下水道への加入、県広域第二水道の導入等を行った。また昭和 60 年代には丘陵部住宅団地での住宅建設が急速に進む一方で、町でも東部市街化区域の土地区画整理事業に着手し、町の近代化がさらに進められた。そのため、昭和 45 年 10 月 1 日の人口は 14,072 人、世帯数が 2,722 世帯であったが、平成 15 年 7 月 1 日現在、人口は 22,765 人、世帯数は 7,014 世帯となっている。近年は人口がほぼ横ばい、世帯数が微増傾向で推移している。

交通は、JR 高崎線の「鴻巣駅」を利用して上野、高崎方面へ、東武東上線「東松山駅」を利用して池袋・新木場、寄居方面へ通じている。また、町の中心部を東松山鴻巣線が、南部を東松山桶川線が横断し、東部寄りを鴻巣川島線が縦断している。東武バスによって鴻巣駅・免許センター、東松山駅、川越駅の各方面へバス便が運行されているほか、周辺市町を主要国道等が通り、関越自動車道の東松山 IC も近いこと等から、近隣へのアクセスも良い。

吉見町の産業は、当初は農業、中でも稲作が中心となっていたが、昭和 30 年代の初めから行われるようになったいちご栽培が、やがて「特産吉見いちご」として高い評価を受けようになり、今では関東でも有数の産地となっている。また、昭和 30 年代の後半からは農村の近代化政策が進められる一方で、昭和 45 年からは大規模工場の誘致が進められてきた。

現在、第四次吉見町総合振興計画を平成 22 年（2010 年）を目標年次として平成 13 年度から実施しており、東部・中央の市街化区域については土地区画整理事業を推進し、工業については無公害型企業の誘致を図る一方、ミニ工業団地の整備を検討する等の取り組みを開始している。また、中新井地区に 4 階建の（仮称）吉見町町民会館の建設計画も進められている。

平成 15 年 7 月 16 日作成